

関西地区青年心理学研究会 2011.8.20 (土)

大学生の学びと成長を促す2つのライフ
－ 将来と日常の接続行動・非接続意識の観点から－

溝上 慎一

(京都大学高等教育研究開発推進センター／教育学研究科)

畑野 快

(京都大学大学院教育学研究科)

<http://smizok.net/>

E-mail smizok@hedu.mbox.media.kyoto-u.ac.jp

90

Slide1

本日の話

- ①2つのライフーイントロダクション
- ②大学生の学びと成長を促す2つのライフ
- ③将来と日常の接続尺度の開発
- ④学習への因果関係を構造モデルで検討する

Slide2

溝上の研究のなかでの位置

❑ 自己形成研究

- ・対話的自己・自己の分権的力学の理論(済 & 改訂)
- ・自己の分権的力学(青年心2011で発表、投稿準備中)
- ・自己形成モード(投稿中)
- ・自己形成尺度(投稿準備中)

❑ 青年期研究

- ・現代青年期の理論(済 & 改訂)
- ・アイデンティティ資本(準備中、with James Côté先生)
- ・**将来と日常の接続尺度**

❑ 大学生プロジェクト(高等教育)

- ・一週間の過ごし方から見る学生タイプ論
- ・**2つのライフ(キャリア)**
- ・IR (Institutional Research) (大阪府立大学)
- ・学校から仕事への移行 (school-to-work transition) (準備中、with 中原淳研究室)

Slide3

2つのライフ

(Future lifeとDaily life)

❑ 大学生1200人インタビュー調査

❑ 調査実施: 1997.12~1999.5



溝上慎一 (編)『大学生の自己と生き方』ナカニシヤ出版(2001年)



溝上慎一 (編)『大学生論』ナカニシヤ出版(2002年)

Slide4

2つのライフ

あなたは、自分の将来についての見通し(将来こういう風でありたい)を持っていますか。もっとも近い番号に1つ〇を付けてください。

1. はい / 持っています 2. いいえ / 持っていません

→「はい」と答えた人におたずねします。その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべて下さい。

あなたは、その見通しの実現に向かって、今自分が何をすべきなのかは分かっていますか。またそれを実行していますか。もっともあてはまる番号に1つ〇を付けてください。

1. 何をすべきか分かっているし、実行もしている
2. 何をすべきかは分かっているが、実行はできていない
3. 何をすべきかはまだ分からない

Slide5

将来の見通しの内容

	1年生	3年生	全体
仕事・職業に関すること	503 (53.7)	447 (45.6)	950 (49.6)
ライフスタイル(人生こういう風に過ごしたい)に関すること	122 (13.0)	154 (15.7)	276 (14.4)
仕事と結婚・家庭のこと両方	74 (7.9)	123 (12.5)	197 (10.3)
大学院へ進学すること	53 (5.7)	79 (8.1)	132 (6.9)
結婚や家庭、子どものこと	37 (4.0)	83 (8.5)	120 (6.3)
資格を取ることに	52 (5.6)	26 (2.7)	78 (4.1)
趣味や娯楽に関すること	15 (1.6)	21 (2.1)	36 (1.9)
留学すること	23 (2.5)	7 (0.7)	30 (1.6)
大学を卒業すること	17 (1.8)	12 (1.2)	29 (1.5)
お金に関すること	15 (1.6)	11 (1.1)	26 (1.4)
他大学へ編入学、あるいは専門学校へ入学すること	13 (1.4)	10 (1.0)	23 (1.2)
内面に関すること	6 (0.6)	7 (0.7)	13 (0.7)
その他	5 (0.5)	1 (0.1)	6 (0.3)
定年後、あるいは老後のこと	1 (0.1)	0 (0.0)	1 (0.1)
合計	936 (100.0)	981 (100.0)	1917 (100.0)

(『大学生のキャリア意識調査2010』)

Slide6

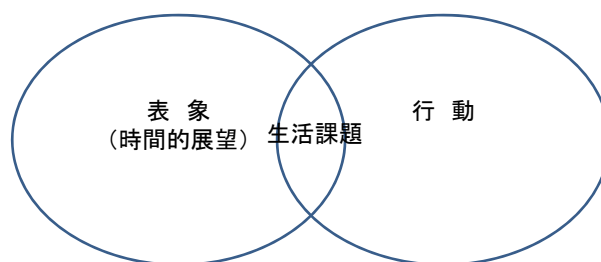
心理学からの概念的理解

- 2つのライフ
 - ・将来の見通し...未来表象(時間的展望)
 - ・日常における理解実行...行動

- 生活課題(life tasks) (Cantor et al., 1987, 1989)
 - ・例「朝は7時に起きる」
 - 「大学で友だちをつくろう」
 - 「就職を有利にするために在学中に〇〇の資格をとっておきたい」
 - ・園田(1996)での分類
 - ①学業・仕事、②家庭・結婚、③友人関係
 - ④趣味・娯楽、⑤成長・維持、⑥物質・環境
 - ⑦一般的な感情、⑧自己実現欲求

Slide7

園田(1996):
「非目標的な時間的展望研究」と言うが...



Slide8

『大学生のキャリア意識調査』

<http://www.dentsu-ikueikai.or.jp/research/>

- 主催：
 - 京都大学高等教育研究開発推進センター・
 - (財)電通育英会
- 電通リサーチ(2007)、マクロミル(2010)によるインターネットリサーチ。
- 回答者：
 - 2007年調査：全国の国公立私立大学生2,013名
(1年生988人、3年生1,025人)
 - 2010年調査：全国の国公立私立大学生2,652名
(1年生1,328人、3年生1,324人)
- 調査時期：
 - 2007年11月、2010年11月に実施。

Slide9

「1週間の生活」項目

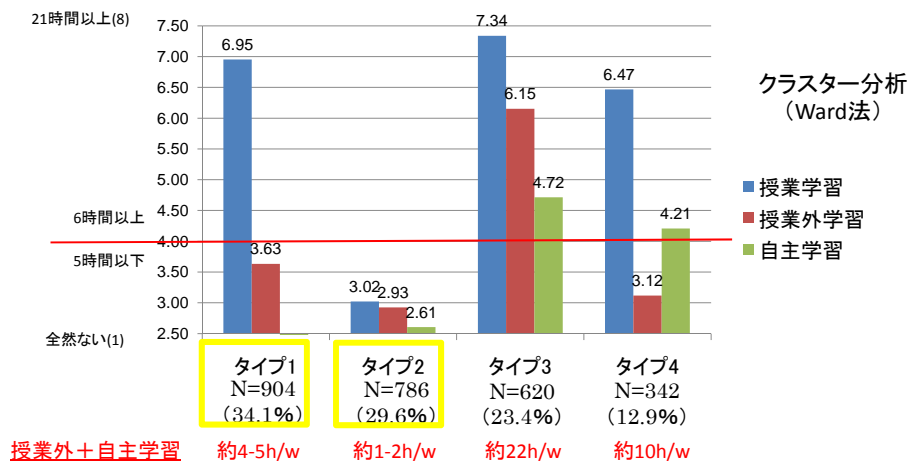
(1)全然ない (2)1時間未満 (3)1-2時間
(4)3-5時間 (5)6-10時間 (6)11-15時間
(7)16-20時間 (8)21時間以上

1. 大学で授業や実験に参加する
2. 授業に関する勉強(予習や復習、宿題・課題など)をする
3. 授業とは関係のない勉強を自主的にする
4. 同性の友達と交際する
5. 異性の友達と交際する
6. クラブ・サークル活動をする
7. コンパや懇親会などに参加する
8. 家庭教師や塾の講師のアルバイトをする
9. 家庭教師や塾の講師以外のアルバイトをする
10. テレビをみている
11. インターネットサーフィンをする
12. ゲーム(ゲーム機・コンピュータゲーム・オンラインゲーム)をする
13. 勉強のための本(新書や専門書など)を読む
14. 娯楽のための本(小説・一般書など、マンガや雑誌を除く)を読む
15. マンガや雑誌を読む
16. 新聞を読む
17. 通学にかかる時間

Slide10

授業・授業外・自主学習時間から「学習タイプ」を作成

(『大学生のキャリア意識調査2010』)

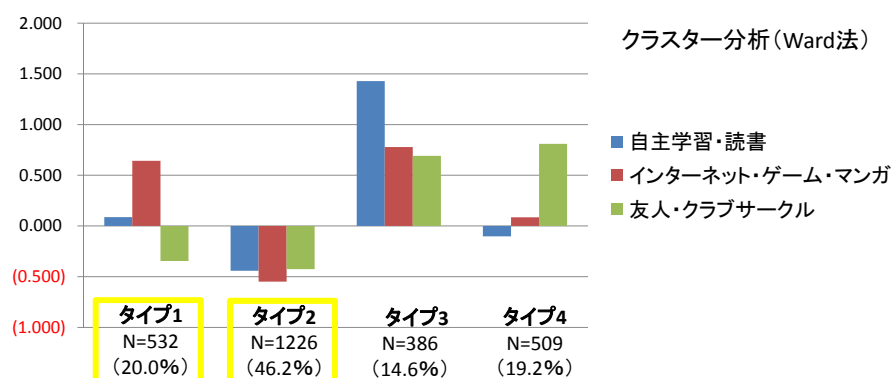


もっとも多いのはタイプ1(授業学習中心)と
タイプ2(学習していない)(計63.7%)

Slide11

1週間の生活から「学生タイプ」を作成

(『大学生のキャリア意識調査2010』)



もっとも多いのは不適應型のタイプ1とタイプ2(計66.2%)

Slide12

2つのライフ

あなたは、自分の将来についての見通し(将来こういう風でありたい)を持っていますか。もっとも近い番号に1つ〇を付けてください。

1. はい / 持っています
2. いいえ / 持っていません

→「はい」と答えた人におたずねします。その見通しのなかでもっとも重要なものを1つ思い浮かべて下さい。

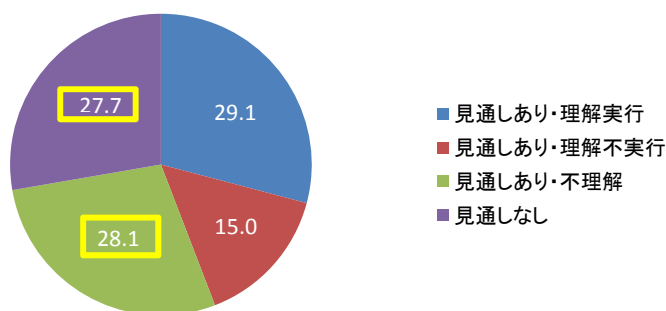
あなたは、その見通しの実現に向かって、今自分が何をすべきなのかは分かっていますか。またそれを実行していますか。もっともあてはまる番号に1つ〇を付けてください。

1. 何をすべきか分かっているし、実行もしている
2. 何をすべきかは分かっているが、実行はできていない
3. 何をすべきかはまだ分からない

Slide13

2つのライフ(将来の見通しと実行)

(『大学生のキャリア意識調査2010』)

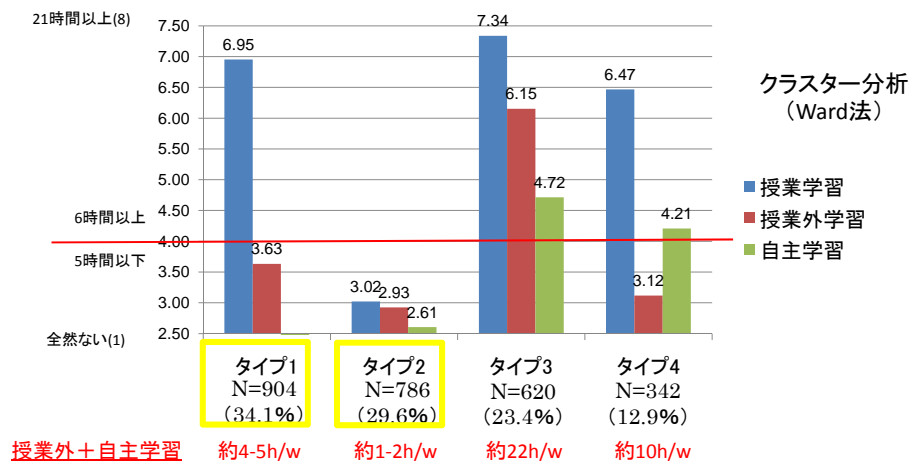


過半数に学生は将来と日常が接続していない
(「不理解+見通しなし」で55.8%)

Slide14

授業・授業外・自主学習時間から「学習タイプ」を作成

(『大学生のキャリア意識調査2010』)

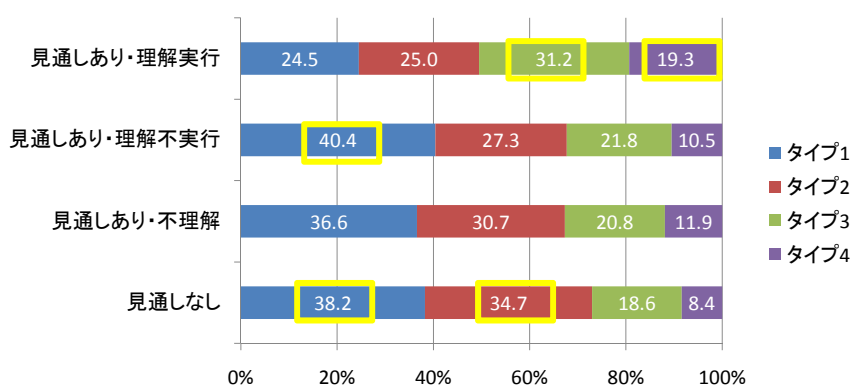


もっとも多いのはタイプ1(授業学習中心)とタイプ2(学習していない)(計63.7%)

Slide15

2つのライフ×学習タイプ

(『大学生のキャリア意識調査2010』)

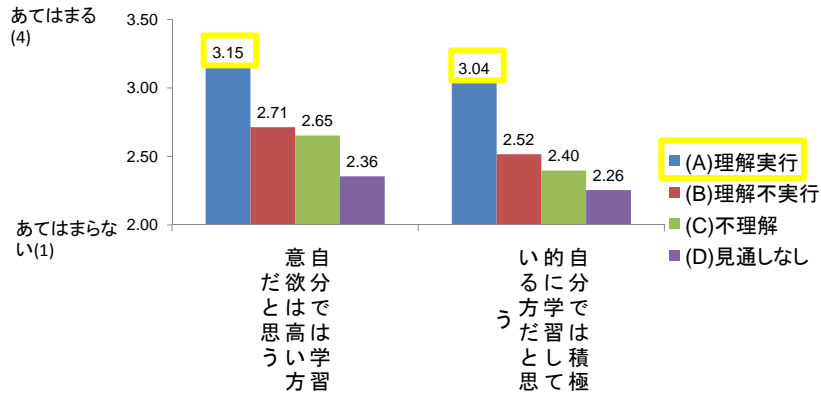


(*) χ^2 検定の結果、0.1%水準で有意差あり($\chi^2(9)=111.623, p<.001$)

Slide16

2つのライフは学習動機に影響を及ぼす

(『大学生のキャリア意識調査2007』)

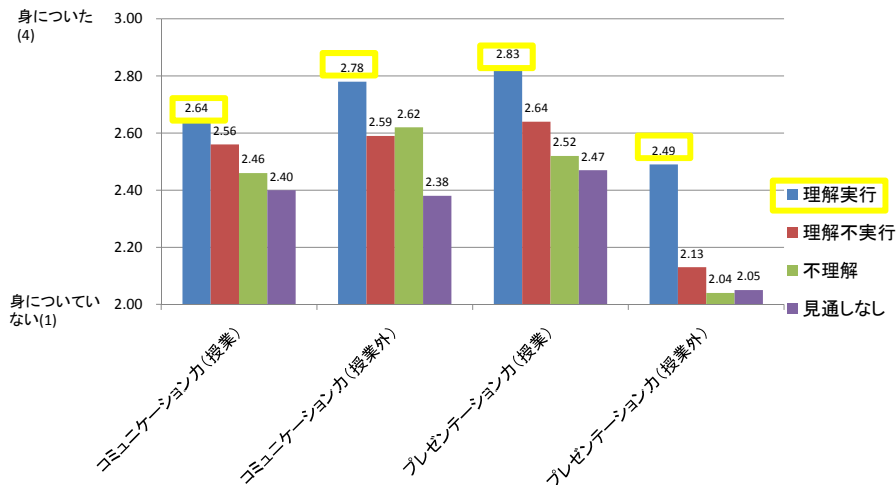


* 一要因分散分析の結果、「授業学習」「授業外学習」「自主学習」すべてにおいて1%水準以上の有意差が見られた(順に、 $F(3, 1830)=4.01, p<.01$, $F(3, 1830)=15.60, p<.001$, $F(3, 1830)=62.32, p<.001$)。多重比較の結果、「授業学習」(C>D)、「授業外学習」(A>B, C>D)、「自主学習」(A>B, C>D)であった。

Slide17

2つのライフは汎用的技能の獲得に影響を及ぼす

(『大学生のキャリア意識調査2007』)



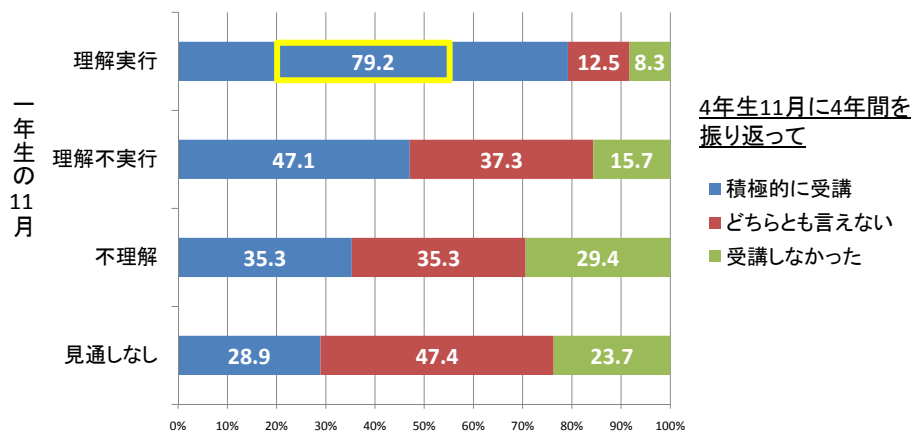
* 京都大学高等教育研究開発推進センター・電通育英会主催『大学生のキャリア意識調査2007』(1年生988名)

**一要因分散分析の結果、すべて0.1%水準で有意差あり

Slide18

2つのライフとアクティブラーニング型授業への参加

(『大学生のキャリア意識調査2010』)

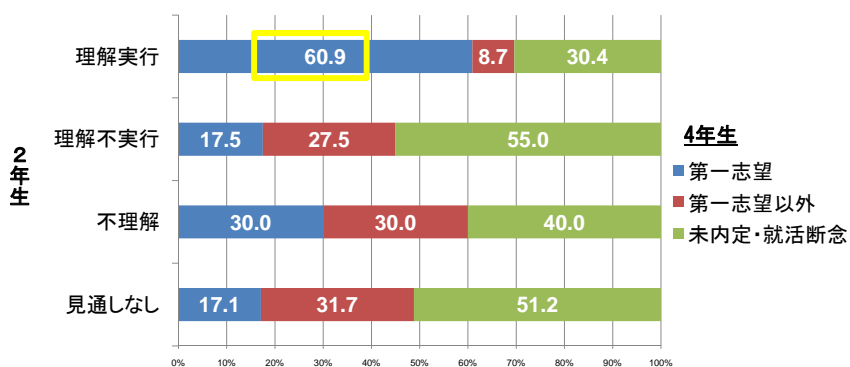


*京都大学高等教育研究開発推進センター・電通育英会主催『大学生のキャリア意識調査2007追跡2010(現在4年生)』(2007年988名→2010年130名)

** $\chi^2(6)=16.905, p<.05$

Slide19

就活の結果との関連

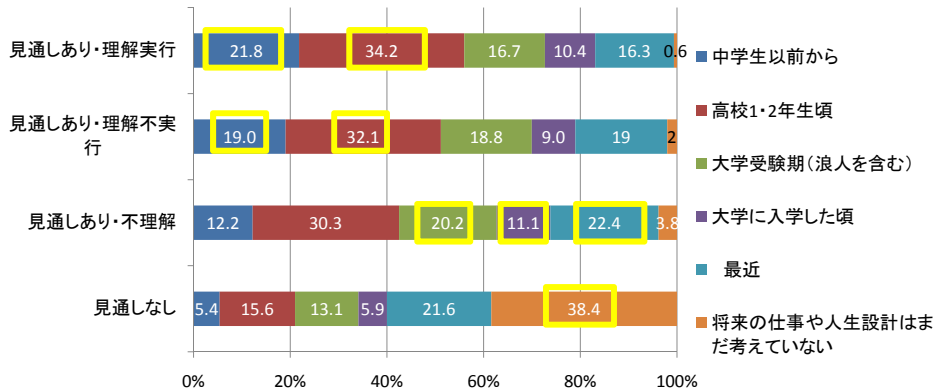


*京都大学高等教育研究開発推進センター・電通育英会主催『大学生のキャリア意識調査2007追跡2010(現在4年生対象)』(2007年988名→2010年130名)

Slide20

いつから将来の見通しを考えていた？

(『大学生のキャリア意識調査2010』)



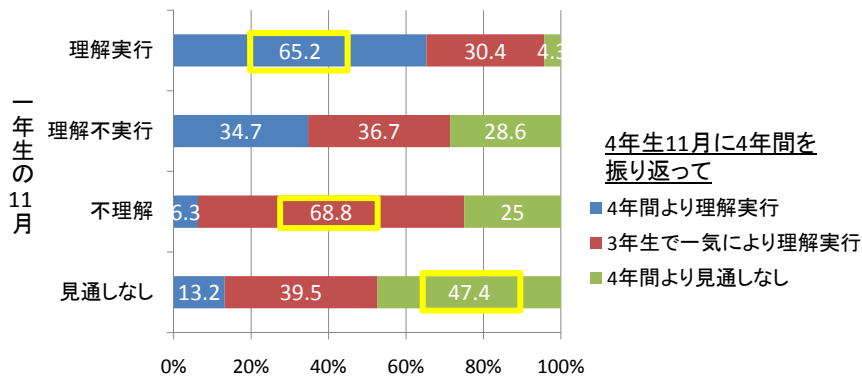
(*) χ^2 検定の結果、0.1%水準で有意差あり($\chi^2(15)=744.246, p<.001$)

「理解実行」は見通しを中高生から考えている

Slide21

1年生が4年生になってどうなっている？

(医療系は除く)



*京都大学高等教育研究開発推進センター・電通育英会主催『大学生のキャリア意識調査2007追跡2010(現在4年生対象)』(2007年988名→2010年130名)

**分析は、医療系の学生を除外しておこなっている。

Slide22

本調査から得られた実践的示唆

- 育てる教育力学
 - ・学生タイプ4に授業外・自主学習を！
 - ・とくに、アクティブラーニング、基礎力(汎用的技能・社会人基礎力)育成のために

- 支援する教育力学
 - ・学生タイプ2(学生タイプ1の一部も含む)に積極的な対人関係・活動の支援を！
 - ・学習に影響大

- はやい時期からのキャリア教育(2つのライフ)
 - ・大学1年生からのキャリア教育では遅いと言っても過言ではないくらいの気持ちで！

Slide23

方法(1/4)

Slide24

- 調査協力者1
 - ・九州の国公立大学工学部系629名
 - ・学年:1年生195名、2年生225名、3年生206名
他3名
 - ・性別:男性459名、女性170名
 - ・手続き:2011年1月に、無記名の個人記入形式の質問紙を講義中に配布し、一斉に実施。

 - 調査協力者2
 - ・北陸の私立大学人間学部250名
 - ・学年:3年生247名、他3名
 - ・性別:男性35名、女性215名
 - ・手続き:2011年7月に、無記名の個人記入形式の質問紙を講義中に配布し、一斉に実施。
- 計879名

方法(2/4)

□ 使用尺度

- ①将来と日常との接続尺度:
接続の「行動」(8項目)と「意識」(8項目)に関する項目を作成(5件法)
- ②学習意欲: 浅野(2002)による「学習への積極的関与」(3項目)、「学習への継続意志」(2項目)(5件法)、因子分析の結果、固有値1が1つ、かつ継続意志の α 係数が.689だったので、5項目を合算して使用($\alpha=.837$)
- ③目標指向性: 白井(1997)による時間的展望体験尺度の「目標指向性」(5項目、5件法)($\alpha=.745$)
- ④充実感: 大野(1984)による充実感尺度の「充実感気分—
退屈・空虚感尺度」(5項目、5件法)($\alpha=.878$)

Slide25

方法(3/4)

- ⑤友人関係尺度(安井・谷, 2008)の
 - ・「友人への信頼」(「自分の心を打ち明けて話す」「悩みごとを相談する」など)($\alpha=.803$)
 - ・「友人からの肯定的影響」(「友達と一緒にいると、今まで気づけなかった世界を知ることができる」「友達と一緒にいることで成長できるように感じる」など)($\alpha=.892$)
 - ・「密着・同調志向」(「友達が自分以外の人と親しげに話しているのを見ると嫌な気持ちになる」「友達がどんなことをしているか、できるだけ知っていたい」など)($\alpha=.850$)
 以上3下位尺度、30項目(7件法)
- ⑥多次元自我同一性尺度(MEIS)(谷, 2001)20項目、7件法($\alpha=.907$)

Slide26

方法(4/4)

⑦学習時間:

『大学生のキャリア意識調査2007』

「一週間の過ごし方17項目、8件法)より3項目

- ・授業学習時間
- ・授業外学習時間
- ・自主学習時間

1	大学で授業や実験に参加する
2	授業に関する勉強(予習や復習、宿題・課題など)をする
3	授業とは関係のない勉強を自主的にする

1週間の平均的な活動時間

(1)全然ない (2)1時間未満 (3)1-2時間 (4)3-5時間
(5)6-10時間 (6)11-15時間 (7)16-20時間 (8)21時間以上

Slide27

接続尺度因子分析結果

Slide28

最尤法、Promax回転、因子得点算出

No	*	項目	平均値(SD)	F1	F2
接続行動 ($\alpha = .812$)					
d12	行	私は将来の夢や目標に向けて準備していることがある	2.90 (.99)	.791	-.001
d8	行	私は将来のために頑張っていることがある	2.94 (1.04)	.763	-.032
d2	行	私は将来を意識しながら日常を過ごしている	2.86 (.99)	.635	-.082
d14	行	私は毎日目標を立てて行動をするようにしている	2.49 (1.02)	.609	.154
d15	行	私は将来の夢や目標に向かって大学で学んでいる	3.04 (1.06)	.554	-.202
d7	行	私は予定を立てて一日を過ごすようにしている	2.53 (1.11)	.522	.105
非接続意識 ($\alpha = .687$)					
d10	意	日々の過ごし方がどうであっても、将来にはあまり関係ないと思う	2.04 (.94)	.152	.779
d9	意	将来のことを考えても何にもならないと思う	2.04 (.94)	.082	.767
d16	意	私は、できるだけ多くの経験を積み重ねて将来につなげたいと思う	2.08 (.91)	.243	-.468
d5	意	大学で学ぶことは、自分の将来にあまり関係ないと思う	2.52 (1.10)	-.088	.439

*内容的妥当性:(接続行動)行 (接続意識)意

【参考】

Slide29

Table1 接続行動、非接続意識の因子分析結果（主因子法、Promax回転）

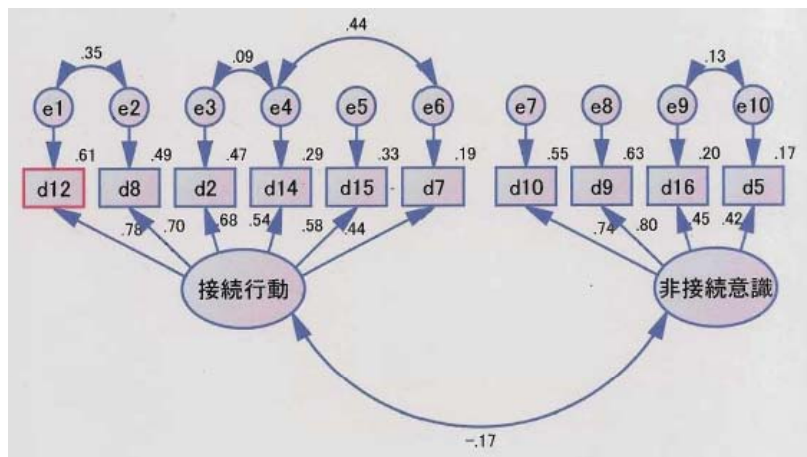
項目	平均値 (SD)	F1	F2
接続行動 (α = .811)			
私は将来の夢や目標に向けて準備していることがある。	16.80 (4.37)		
私は毎日目標を立てて行動をするようにしている	2.86 (0.95)	.74	.02
私は将来のために頑張っていることがある。	2.55 (1.02)	.68	-.18
私は将来を意識しながら日常を過ごしている。	2.92 (1.02)	.68	.02
私は将来を予定を立てて一日を過ごすようにしている。	2.91 (0.96)	.65	.15
私は将来の夢や目標に向かって大学で学んでいる。	2.52 (1.09)	.59	-.15
私は将来の夢や目標に向かって大学で学んでいる。	3.03 (1.03)	.54	.20
非接続意識 (α = .729)			
将来のことを考えても何にもならない。	22.73 (3.84)		
日々の過ごし方がどうであっても、将来にはあまり関係ないと思う。	3.95 (0.94)	-.20	.74
日々の過ごし方がどうであっても、将来にはあまり関係ないと思う。	3.94 (0.94)	-.23	.71
*私は、経験を積み重ねて将来につなげたいと思う	3.87 (0.93)	.22	.59
大学で学ぶことは、自分の将来にあまり関係ないと思う。	3.44 (1.08)	.01	.45
*私は、いろいろな友達と付き合い将来を豊かにしようと思う。	3.80 (0.99)	.18	.45
*私は、日常の過ごし方が将来につながってくると思う。	3.71 (0.99)	.29	.41

累積寄与率50.27%, 因子間相関.18, 下位尺度間相関-.21** (**p<.001)

*は逆転項目, 付加量は逆転処理後の値

畑野快・溝上慎一 (2011). 大学生の2つのライフの構造分析1ー将来指向性と日常指向性のバランスの観点からー. 第33回大学教育学会大会発表要旨集録, 196-197.

確認的因子分析



* $\chi^2(30)=320.172, p<.001$
GFI=.926, AGFI=.865, RMSEA=.117

「接続行動」と「非接続意識」はほとんど相関なし($r=-.17$)

Slide30

目標指向性との相関

(弁別的妥当性)

接続行動(前掲)

d12	私は将来の夢や目標に向けて準備していることがある
d8	私は将来のために頑張っていることがある
d2	私は将来を意識しながら日常を過ごしている
d14	私は毎日目標を立てて行動をするようにしている
d15	私は将来の夢や目標に向かって大学で学んでいる
d7	私は予定を立てて一日を過ごすようにしている

目標指向性(白井, 1997)

1	私には、だいたいの将来計画がある
2	将来のために考えて今から準備していることがある
3	私には将来の目標がある
4	私の将来は漠然としていてつかみどころがない
5	将来のことはあまり考えたくない

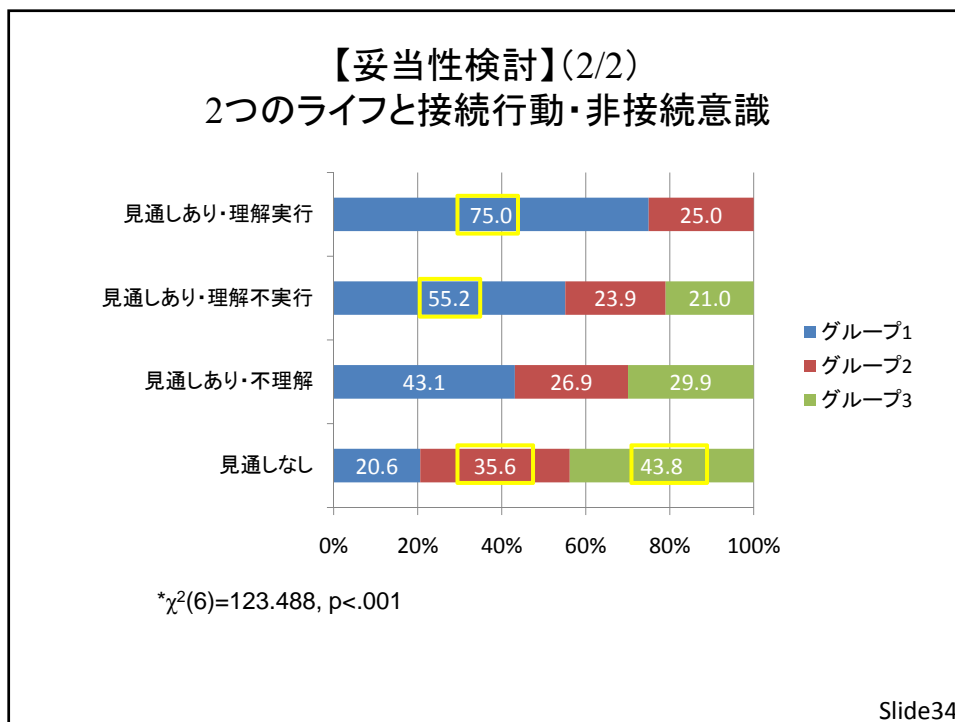
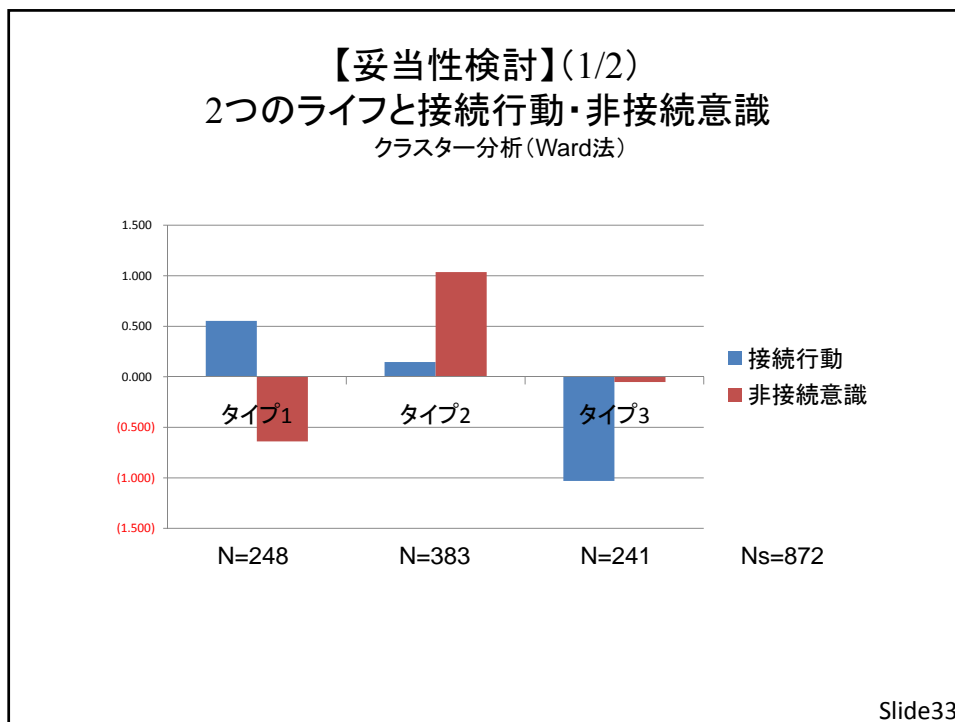
$r = .602^{**}$

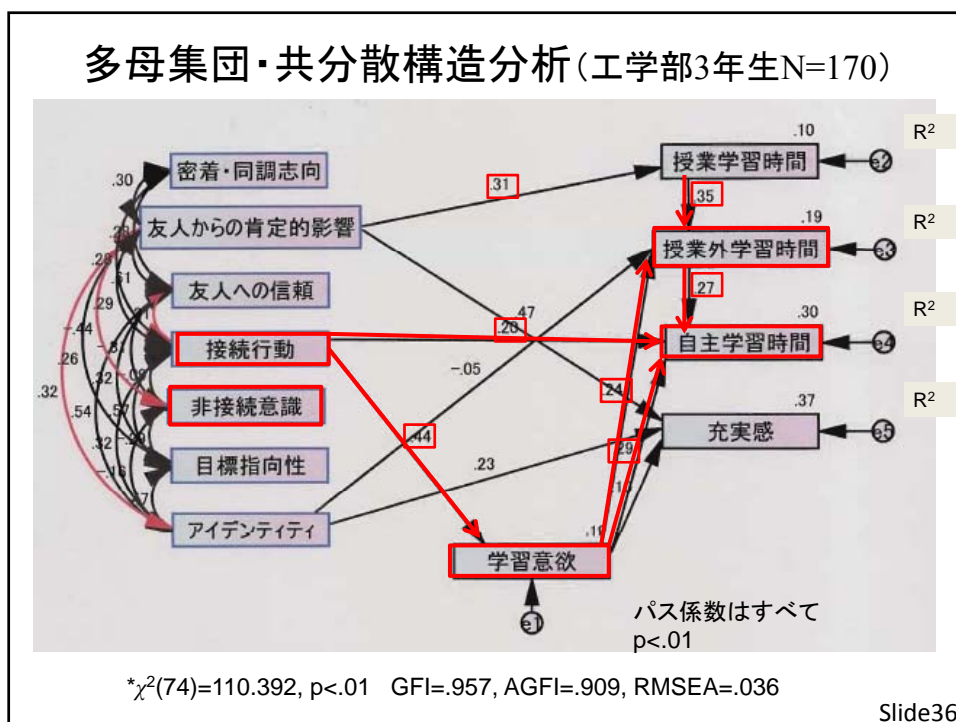
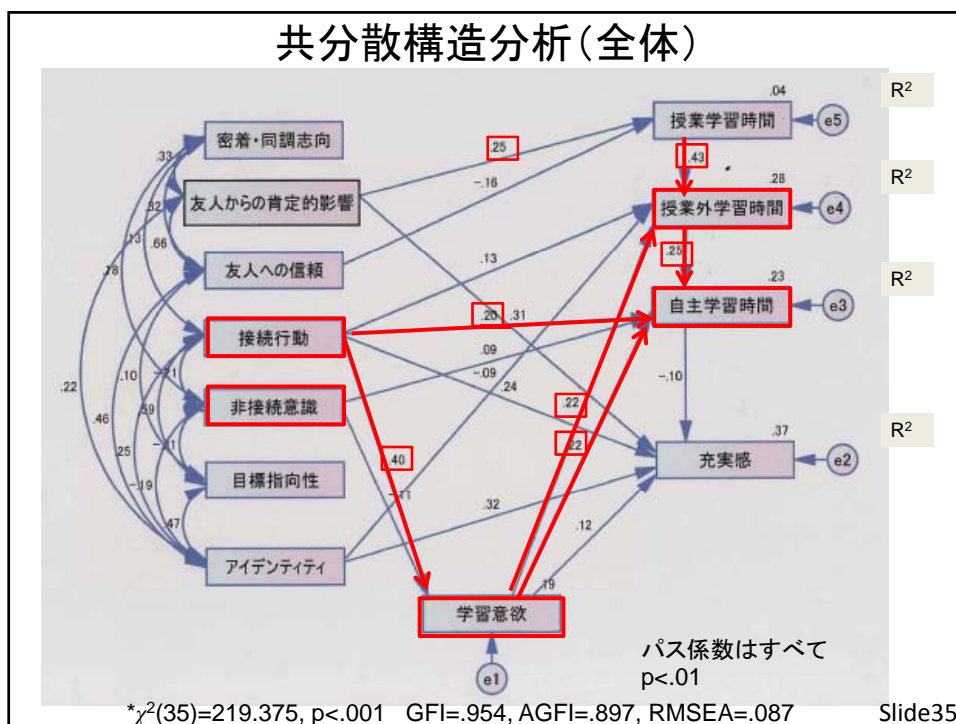
Slide31

接続行動・目標指向性と非接続意識との相関

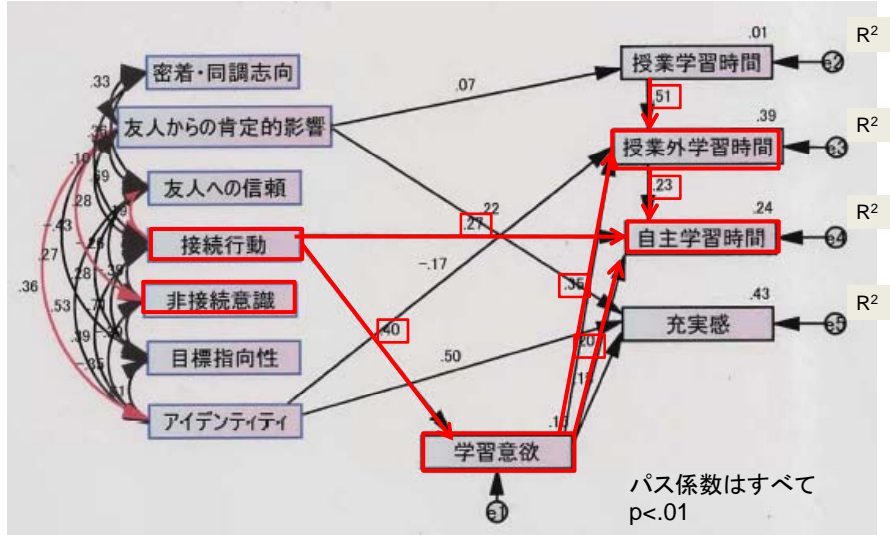
	接続行動	非接続意識	目標指向性
接続行動	1		
非接続意識	-.194	1	
目標指向性	.602	-.309	1

Slide32





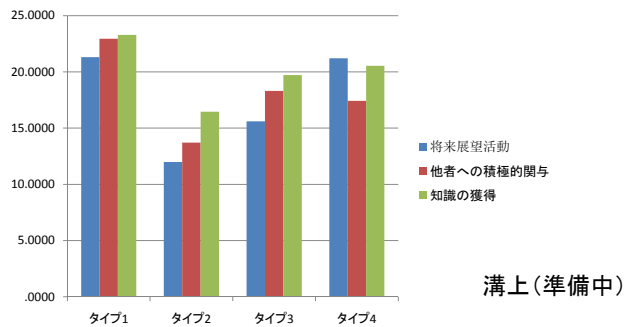
多母集団・共分散構造分析(人間学部3年生N=214)



Slide37

まとめと今後の課題

- 接続尺度の開発、2つのライフの構造モデルを検証
- 自己形成力学(溝上、投稿中)との関係を検討
 - ・時間的展望活動
 - ・将来基礎活動
 - ・非時間的展望活動(学習、人との出会い)



Slide38

文献

- ・浅野志津子 (2002). 学習動機が生涯学習参加に及ぼす影響とその過程－放送大学学生と一般大学学生を対象とした調査から－. 教育心理学研究, 50, 141-151.
- ・Cantor, N., & Langston, C. A. (1989). Ups and downs of life tasks in a life transition. In L. A. Pervin (Ed.), Goal concepts in personality and social psychology. Hillsdale, N.J.: Lawrence Erlbaum Associates. Pp.127-167.
- ・Cantor, N., Norem, J. K., Niedenthal, P. M., Langston, C. A., & Brower, A. M. (1987). Life tasks, self concept ideals, and cognitive strategies in a life transition. Journal of Personality and Social Psychology, 53, 1178-1191.
- ・白井利明 (1997). 時間的展望の生涯発達心理学. 勁草書房.
- ・園田直子 (1996). 非目標的な時間的展望についての考察. 久留米大学文学部紀要, 人間科学科編, 9・10, 45-61.
- ・谷冬彦 (2001). 青年期における同一性の感覚の構造－多次元自我同一性尺度(MEIS)の作成－. 教育心理学研究, 49, 265-273.
- ・安井圭一・谷冬彦 (2008). 現代青年の友人関係と自我同一性との関連. 日本パーソナリティ心理学会大会発表論文集, 17, 212-213.

Slide39